



～祝辞～

日本医薬情報センター創立50周年にあたって

厚生労働省医薬・生活衛生局長
八神 敦雄

この度、一般財団法人日本医薬情報センターが創立50周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。1970年の設立以来、歴代会長、役員及び会員の皆様のたゆまぬご尽力により、日本医薬情報センターがこのように大きな発展を遂げられ、日々、医薬情報の提供を通じて、国民の健康や医療の向上に貢献しておられますことに、深甚なる敬意と感謝の意を表すところでございます。

昨今の新型コロナウイルス感染症の流行は、世界中の人々の生活に甚大な影響をもたらしました。厚生労働省では、国民の生命と健康を守るため、安全かつ有効なワクチン、治療薬、医療機器等について、特例承認や優先的な審査等により早期の承認に取り組んでまいりました。そして、さらなる早期化を実現すべく、緊急時に新たな医薬品等を速やかに承認する緊急承認制度を創設しました。日本医薬情報センターにおかれましては、国内外の新型コロナウイルス感染症関連製品等について、安全性情報や公的機関情報を幅広く収集し、適正使用推進に役立つよう迅速に提供いただいております。今後ますます果たされる役割が大きくなるものと考えております。

国民の健康増進や切れ目のない質の高い医療の提供に向け、医療分野のデジタル化が進んでいます。厚生労働省では、MID-NETなどのリアルワールドデータの利活用、添付文書の電子化、トレーサビリティ向上のためのバーコード表示の義務化などデジタルを活用した安全対策の向上を図ってまいりました。また、医療・介護分野でのDXによりデータ利活用等を推進し、安心して質の高い医療・介護サービスの提供を実現する一環として、電子処方箋の導入を進めています。日本医薬情報センターでは、早くから医薬文献抄録のオンライン検索システムや医薬品情報データベースの構築などに取り組まれてきました。今後も、最先端の技術を活用しながら、医薬品等の安全対策の取組に貢献する様々なサービスを提供されることを期待しております。

また、日本医薬情報センターにおかれましては、添付文書関連の情報提供や医薬品情報に関する出版活動などを通じて、医療関係者や製薬企業、そして国民に対して、医薬品等の適正使用に資する品質・有効性・安全性情報をお届けいただいております。人生100年時代を

一般財団法人 日本医薬情報センター 創立50周年記念

迎え、国民のライフスタイルが多様となってまいります。医療分野においては、科学技術力向上やイノベーションの目覚ましい進展の下で、ゲノム情報や、体質、生活環境、ライフスタイルにおける違いを考慮して、それぞれの患者に合った最適な治療を行うプレジジョンメディシンがさらに進んでまいります。国民の医薬品等の情報に対する関心が高まる中、日本医薬情報センターが提供される医薬情報が、今後とも、国民一人一人の健康・予防・医療に役立てられ続けることは、非常に重要であると考えております。

創立から半世紀という大きな節目を迎えられたところですが、これをさらなる飛躍の契機とし、医薬品、医療機器と患者をつなぐ正確かつ迅速な医薬情報発信の中核として、日本医薬情報センターがますますご発展されますことを心からお祈りし、祝辞といたします。